

〈研究ノート〉

ピエロ・スラッファの蔵書について

On Piero Sraffa's Library

松 本 有 一

Piero Sraffa died on 3 September 1983 and bequeathed his financial assets and collection of books to Trinity College, Cambridge. His collection contains many rare books. De Vivo edited and published the *Catalogue of the Library of Piero Sraffa* with an editor's introduction and notes. This paper will review the *Catalogue* and take up some topics of Sraffa's collection.

Yuichi Matsumoto

JEL : A30, B20, B31

キーワード : スラッファの蔵書、デ・ヴィーヴォ、パシネッティ、ヘルチェ

Keywords : Sraffa's library, De Vivo, Pasinetti, Heertje

- I はじめに
- II スラッファの蔵書構築
- III デ・ヴィーヴォ編の蔵書目録
- IV スラッファの古書収集のエピソード
- V むすび

I はじめに

ピエロ・スラッファ (Piero Sraffa) は 1983 年 9 月 3 日、英国ケインブリジで死去し、およそ 150 万ポンドの資産 (その半分は蔵書の価値) をトリニティ・コレッジに遺した。1927 年にイタリアからケインブリジに移り、1939 年 10 月から終生、彼はトリニティ・コレッジのフェローであった。彼は金融資産と蔵書の他にも、私的な文書や研究過程で作成した文書類などを遺した。

文書類はスラッファ・ペーパーズ (Sraffa Papers) として整理され、1994 年に公開された。スラッファ研究者にとっての宝庫である。

筆者は 1991 年度の 1 年間、ケインブリジでスラッファについて調査研究した。スラッファが書き残した覚え書きなどは、スラッファの文書管理者 (literary executor) のピエランジェロ・ガレッニャーニ (Pierangelo Garegnani) によって編集・出版される予定であると、その当時すでに書店経由で情報が流れていた。しかし、残念ながら、スラッファ・ペーパーズの整理はまだ終わっていなかった。筆者は 1991 年、ケインブリジでガレッニャーニと会うことができた。その時に聞かされたことは、出版がされるまで、スラッファが書き残した文書などの閲覧はできないということであった (スラッファ・ペーパーズの出版はいまだ実現していないが、1994 年に公開され閲覧できるようになった)。

しかし、そうではあったが、当地でなければわからないさまざまな資料から、スラッファに関していろいろと調べることができた。その過程で、ケインブリジ大学経済学部の図書館であるマーシャル・ライブラリ (Marshall Library of Economics) 内のオンライン検索端末でスラッファの著作を検索していたところ、例えば『商品による商品の生産 *Production of Commodities by Means of Commodities*』の英語版第 1 刷 (1960 年) のなかに、トリニティ・コレッジ図書館所蔵で分類番号として「Sraffa 2706」、「Sraffa 3749a, 3749b」と記載された版本があった。大学図書館、学部図書館、コレッジ図書館の蔵書を、オンラインで検索可能になっていたのである。それでトリニティ・コレッジ図書館に問い合わせると、スラッファの蔵書の閲覧ができることが分かった。

1991 年には、スラッファ・ペーパーズの閲覧はできなかったが、スラッファの蔵書 (当時、Sraffa Collection と呼ばれていた) は閲覧することができた。また、蔵書のなかで書き込みがある場合は、オンライン・カタログに「annotated」と記載されていた。ある本がスラッファの蔵書にあるかどうかは、オンライン・カタログで検索すれば、その有無はわかったが、それだけでは不便である。スラッファの蔵書目録は、コンピュータ打ち出しの折り畳み式の連続紙に著者のアルファベット順に印字され、綴じられたものが、トリニティ・コレッジのレン・ライブラリ (Wren Library) 内に備え付けられていた。だが、一般

にはスラッファの蔵書の全貌を知ることが困難であった。ようやく、2014年にイタリアのジャンカルロ・デ・ヴィーヴォ（Giancarlo de Vivo）の編集で『ピエロ・スラッファ蔵書目録 *Catalogue of the Library of Piero Sraffa*』（De Vivo 2014）が出版された。これは単に蔵書目録であるだけでなく、スラッファの蔵書の特徴を、収集方針を含めて論じたルイジ・L・パシネッティ（Luigi L. Pasinetti）の序論（Foreword）と、蔵書全般に関するデ・ヴィーヴォによる詳細な序文（Introduction）が付されている。

本稿は『スラッファ蔵書目録』について（そのすべてに関してではないが）論じるとともに、スラッファの蔵書、収集に関するいくつかのエピソードを取り上げることが目的としている。

II スラッファの蔵書構築

スラッファが亡くなったとき、トリニティ・コレッジの彼の部屋はネヴィルズ・コートにあった。彼の部屋があった同じ建物の続きに主に学生が利用する図書館があり、さらに続いてレン・ライブラリが位置していた。スラッファの蔵書は彼が亡くなったときのままの状態で見つけられているようである。

スラッファの蔵書に多くの稀覯書があることは、生前から彼の周辺の人たちからの情報で知られていたが、その全貌を知ることが難しかった。スラッファの蔵書の全貌を広く知らしめることになったのはデ・ヴィーヴォ編『ピエロ・スラッファ蔵書目録』であったといつてよいだろう。

デ・ヴィーヴォの序文は本文だけで19ページ分あるが、本文中の見出しを取り出すと、Books and Booksellers、The Collection、The Formation of the Collection、The Present Catalogue とある。このような見出しから推測できるかも知れないが、デ・ヴィーヴォはスラッファの本の収集の歴史、収集の方法、古書籍商との付き合い、取り引きなど、そして蔵書の全体情報などを記している。

パシネッティもスラッファと同じくイタリア人で、スラッファの現役時代にケインブリジで教職にあつて、彼に極めて近い研究者の一人である。パシネッティも序論「ピエロ・スラッファと彼の書物 Piero Sraffa and his books」で、

スラッフアの書物愛にふれながら、書かれることがなかったスラッフアの経済思想史（スラッフアがケインブリジ大学経済学講師としての最初の講義「上級価値論 Advanced Theory of Value」の準備過程で作成した覚え書きに、彼が考える経済思想史の流れの概略がある）の観点から、蔵書構成に関する見解を示している。

デ・ヴィーヴォによると、蔵書目録に記載されたタイトル数は約 7000、そのうち 1900 年より前の出版は 4000 弱ある。インキュナブラ 3 点、16 世紀の本は約 60 点、17 世紀はおよそ 240 点、18 世紀は約 700 点、19 世紀前半は 1600 点、19 世紀後半は 1000 点弱で、その他は 20 世紀の出版でその多くは専門誌論文の抜刷である（De Vivo 2014, p.XL）。

III デ・ヴィーヴォ編の蔵書目録

デ・ヴィーヴォの目録編集をパシネッティはつぎのように評価している。

「われわれはこの偉業をジャンカルロ・デ・ヴィーヴォに負っている。彼は何年もかけて——細心の厳格さと根気強さをもって、急がず休まず——一点一点を注意深く吟味し、著者を確認し、明らかにするのに必要な調査をし、原典の確認、出所、由来のできるかぎりの確定、年代の特定を行ない、必要な照合、比較を行なった。このことはスラッフアの書物愛（言葉の厳密な意味での書籍愛の情熱 bibliophilic passion）をただ単に明らかにするのみならず、また私の見解ではより重要であるが——貴重で、美しい書物を所有するという表面的な満足をはるかに越えた——人が決して想像できなかったような知識の経路を思いかげず開示するような事項を明らかにした」（De Vivo 2014, p.XIII）。

目録は基本的に著者名のアルファベット順で、著者ごとでは出版年順に配列されている。目録番号は 1 から 6723 である。各項目の末尾にトリニティ・コレッジ図書館の分類番号が記されていて、同一版本が複数あるばあいは、それらの分類番号は書誌事項のなかで記されている。ただ、後に述べるように、目録番号とトリニティ・コレッジ図書館の分類番号とが混同されることがあるし、分類番号の表記の仕方には一部疑問がある。そこでスラッフア自身の著作に関して、デ・ヴィーヴォの目録記載事項を取り上げることにしたい。

目録番号 5584 から 5629 まではスラッファ自身の単独の著作（翻訳や外国での出版を含む）である。このなかから、スラッファ自身によって刊行された『商品による商品の生産』の英語版とイタリア語版に関する目録書誌を見ることにしよう。

『商品による商品の生産』の英語版の第 1 刷（1960 年）は目録番号 5600 で、つぎのように記載されている。

5600 Sraffa, Piero.

Production of commodities by means of commodities | Prelude to a critique of economic theory.

Cambridge: Cambridge University Press, 1960; xii+99p; 25 cm. First edition. Annotated by Sraffa with corrections for reprint. (Two more copies at 3749.1). 2706

目録によると末尾の 2706 はトリニティ・コレッジ図書館での分類番号であるが、同図書館のオンライン・カタログで検索すると「Sraffa 2706」であり、これが正規の分類番号である。デ・ヴィーヴォによると同じ版本がもう 2 冊あり、それは 3749.1 であると記されている。ただし、オンライン・カタログでは Sraffa 3749a、Sraffa 3749b であり、トリニティ・コレッジ図書館で閲覧するには閲覧請求カードに「Sraffa 3749a」、「Sraffa 3749b」などと記入しなければならない。ここで Sraffa 2706、Sraffa 3749a、Sraffa 3749b の 3 冊について、1991 年に筆者がそれぞれの現物にあたって調査してわかったことを記すことにしよう。

Sraffa2706 は、内容は確かに 1960 年に刊行された版本（第 1 刷）であるが、装丁は市販とは異なり、えび茶色ないし臙脂色の厚紙装である。本文中には多くの書き込みがあり、ほぼ訂正に関するものである。扉ページに訂正箇所のパージ番号が記されているが、そのなかに「p.12 + 27 (equal to / proportional to} labour cost)」（註：equal to と proportional to は上下に記されている）、「p.27 “equal” correct to “proportional”」そして「§ 39 correggere (24.8.66)」との記載がある。1966 年 8 月 24 日に 39 節の記述に訂正の必要があることに気

づいたのである。つまり、この 1 冊は後々も訂正を記入するために使われていた。実際、1966 年以降の増刷では訂正されている。それは 27 ページの下から 5-6 行目の「since prices are equal to labour cost (§ 14)」で、訂正後は「prices being in proportion to labour cost (§ 14)」である。この箇所は Sraffa 2706 には equal to labour cost に下線が付き、欄外に「proportion in § 14」と記されている。すなわち、14 節で使った proportion に合わせて表現を変えたということである。

このように、訂正のための書き込みが多数なされているが、それとは別に、第 2 刷 (1963 年) での訂正に関して序文の後に付されることになる注記の手書き原稿の紙片が、やはり序文の最後のページの余白に貼付されている。また、「D.T. 5.7.68」と記された新聞の切り抜きが、タイトルページを開いたところに挟み込まれている (D.T. は Daily Telegraph か?)。糊付けのあとが残っていて、もともとはタイトルページの対面の白紙ページに貼付されていたと思われる。新聞記事の見出しは「Britannia Basic commodities」である。

次に Sraffa 3749a と Sraffa 3749b である。3749 という番号に関してはもう一つ Sraffa 3749c がある。Sraffa 3749c は『商品による商品の生産』英語版第 2 刷 (1963 年) である。スラッファの蔵書の分類番号であるが、それは各冊に直接記入されたり、ラベルが貼付されていたりするのではない。分類番号が記された短冊が挟み込まれているだけである。Sraffa 3749a、Sraffa 3749b、Sraffa 3749c に関していえば、「3749a,b,c」と記された短冊が、筆者が閲覧した時には、1963 年版すなわち Sraffa 3749c に挟み込まれていた。Sraffa 3749a、Sraffa 3749b は、いずれも 1960 年版であるが、a と b の区別がわからなかった。その一方は、ダストジャケットにわずかのシミがあるが、新品同様で、書き込みはない。他方は、ダストジャケット全体に茶色いシミがあり、表紙見返しの右下に書店名が印刷されたラベルが貼付されている。ラベルには「BOWES & BOWES / New & Second-hand Booksellers / TRINITY STREET, CAMBRIDGE」とある (/ は改行)。また、裏表紙見返しの対面ページに「13/6/60」ないし「13/5/60」と読み取れる記入がある。スラッファ自身による書き込みかどうか判断できないが、自身の著作を古書店で見つけてス

ラッファが購入したのかもしれない。本文中には何も書き込まれていない。

『商品による商品の生産』英語版第2刷（1963年）は目録番号5606でつぎのように記載されている。

5606 Sraffa, Piero.

Production of commodities by means of commodities | Prelude to a critique of economic theory.

Cambridge: Cambridge University Press, 1963; xii+99p; 26 cm. First reprint, with corrections and note at foot of p.vii explaining them. 2 copies. One has ms notes for change to be made in next reprint.

3749.1

デ・ヴィーヴォ編の目録では、1963年の第2刷のトリニティ・コレッジ図書館の分類番号では「3749.1」だということであるが、すでに指摘したように正しくは「Sraffa 3749c」である。また、同じ版本が2冊（2 copies）あると記されているが、もう1冊の分類番号は不明である。あるいは「3749.1」で2冊あるということなのか？ 現在トリニティ・コレッジ図書館のオンライン・カタログで検索する限り、1963年版はSraffa 3749cの1冊だけである。いずれにしても、デ・ヴィーヴォの目録の記載では「3749.1」は英語版『商品による商品の生産』の第1刷（1960年）であり、第2刷（1963年）でもあることになる。

1963年の第2刷では、元の序文に続いて注記が追加され、37ページの2つの式の訂正とその理由が記されている。この注記は第2刷だけにあり、英語版では1972年の第3刷以降は削除されている。Sraffa 3749cには訂正その他の書き込みがあり、序文に続く注記の削除が指示されている。

『商品による商品の生産』のイタリア語版は、友人のマッティオリ（Raffaele Mattioli）の協力を得てスラッファ自身によって原稿が作成され、1960年6月に刊行された。スラッファ自身が所蔵していた『商品による商品の生産』のイタリア語版に関して、デ・ヴィーヴォ編の目録ではどのように記載されているであろうか。第1刷はつぎのように記載されている。

5601 Sraffa, Piero.

Produzione di merci a mezzo di merci | Premesse a una critica della teoria economica.

Torino: Giulio Einaudi, 1960; xiii+129p; 22 cm. Original printed wrappers. First Italian edition. Annotated for changes to be made in reprint. Notes loosely inserted. 3750

デ・ヴィーヴォ編の目録では『商品による商品の生産』のイタリア語版第 1 刷は 1 冊だけということだが、筆者が 1991 年に調査した時には、Sraffa 3750 と Sraffa 3754 の 2 冊があった。現在トリニティ・コレッジ図書館のオンライン・カタログで検索しても同様であった。Sraffa 3754 は、後出のようにデ・ヴィーヴォの目録では 1972 年の第 3 刷とされている。なぜそうなったのだろうか。

トリニティ・コレッジ図書館のオンライン・カタログでは、イタリア語版第 1 刷の注記に「2 copies; first annotated (notes concerning reprint), and second bound in half-leather.」と記されている。

Sraffa 3754 は特装版 (bound in half-leather) である。天金であるが、前小口や下辺は裁断されないままである。筆者が 1991 年に閲覧した時、Sraffa 3754 は、序文まではページが切られていたが、それ以降のページは切られていないままであった。

Sraffa 3750 は紙装本で、訂正など多数の書き込みがあり、見返しに半透明の袋が糊付けされ、その中に 9 葉のメモ書きが収められていた。デ・ヴィーヴォ編の目録で「Notes loosely inserted」と記されているのは、この 9 葉のことであろう。

イタリア語版第 2 刷に関して、デ・ヴィーヴォ編の目録では次のように記載されている。

5612 Sraffa, Piero

Produzione di merci a mezzo di merci | Premesse a una critica della teoria economica.

Torino: Giulio Einaudi, 1969; xiii+129p; 22 cm. Original printed wrappers. First reprint of the Italian edition, with corrections, and note at foot of p.vii explaining them. Contains ms annotations and correspondence with publishers about reprint. (Another copy at 2545.1)

3751

Sraffa 3751 はイタリア語版第 2 刷で、同じ版本がもう 1 冊あり、デ・ヴィーヴォ編の目録ではそれは「2545.1」であると記されているが、オンライン・カタログでは Sraffa 2545a である。デ・ヴィーヴォ編の目録で「correspondence with publishers about reprint」とあるのは、1972 年のイタリア語版第 3 刷に関するスラッファと出版社とのやり取りで、出版社からの書簡 2 通である。

イタリア語版第 3 刷に関して、デ・ヴィーヴォ編の目録では次のように記載されている。

5616 Sraffa, Piero

Produzione di merci a mezzo di merci | Premesse a una critica della teoria economica.

Torino: Giulio Einaudi, 1972; xiii+129p; Einaudi Paperbacks n.35; 23 cm. Original printed wrappers; first issue in this series. (Other copies at 3752 and 3754).

2546

デ・ヴィーヴォ編の目録ではイタリア語版第 3 刷 (1972 年) は Sraffa 2546、Sraffa 3752、Sraffa 3754 の 3 冊あるとなっているが、前述のように Sraffa 3754 は第 1 刷の特装版である。オンライン・カタログで検索するとイタリア語版第 3 刷は Sraffa 2546、Sraffa 3752 の 2 冊である。

このようにデ・ヴィーヴォ編の目録には誤りがあるのだが、イタリア語版第 3 刷に関してはもっと興味深い事項がある。

筆者が 1991 年に最初に Sraffa 2546 の閲覧請求をした時、1 冊だけが提供されたのだが、その 1 冊に挟み込まれていた Sraffa 2546 と記された短冊に

「3 the same」と記されていた。その時閲覧した 1 冊は、別の第 3 刷 (Sraffa 3752) と比べて変わるところがなかったので、Sraffa 2546 の残りの 2 冊も同じであろうと思い、いったんはそれで終わった。

『商品による商品の生産』の英語版では、第 2 刷 (1963 年) で序文に追記して訂正に関する注記が付されたが、第 3 刷以降その注記は削除された。スラッフアは注記を削除することにこだわっていたようだ。ところが、筆者が閲覧したイタリア語版第 3 刷である Staffa 2546 の 1 冊と Sraffa 3752 では、序文の後に追記された注記は削除されないままであった。

その後、当時ローマにいた藤井盛夫氏から、スラッフアの手もとに、訂正の注記が削除されたイタリア語版があるはずだという情報を得て、再調査した。Sraffa 2546 はやはり 3 冊あり、書架には 3 冊が並んでいて、まったく同じものということで分類番号は一括されたのであろう。3 冊はすべて 1972 年刊行で、Einaudi Paperbacks の n.35 である。タイトルページの裏には、すべて「Seconda ristampa, 1972」(第 2 の増刷なので通算で第 3 刷) と印刷されていて、また、末尾 (130 ページ目) には「Finito di stampare il 28 ottobre 1972」、「Risampa identica alla precedente del 24 maggio 1969」の印刷があり、これも 3 冊とも同一である。つまり、1969 年 5 月 24 日の版と同一の印刷で、1972 年 10 月 28 日に印刷が完了した、ということである。

ところが更に詳しく見ていくと、やはり 2 冊には序文の後ろの注記がないのである。裏表紙に印刷されているエイナウディ・ペーパーバックス (Einaudi Paperbacks) の紹介文も違う。定価も変わっている。

このように、『商品による商品の生産』のイタリア語版第 3 刷 (1972 年) は 2 種類あるのだが、訂正に関する注記の有無と裏表紙に印刷されている内容 (その全部ではないが) を除けば、相違はない。スラッフアは第 3 刷では訂正に関する注記の削除を望んでいたが、それを無視したのか、版元としての判断か、エイナウディ出版は、注記を残す判断をした。しかし、スラッフアは注記を削除することを要求し、社主のジュリオ・エイナウディ (Giulio Einaudi) はそれに応えたのであろう。いずれにしてもスラッフアなぜこのようにこだわったのだろうか。明確なことはわからない。

『商品による商品の生産』のイタリア語版は1999年にFabio Ranchettiの序文が付された新版が出版された。これには、訂正に関するスラッファの注記が付されている。またこの新版に記載の増刷履歴から、1975年にイタリア語版が増刷されている（Terza ristampa 1975）ことが分かるが、1975年のイタリア語版はスラッファの蔵書にはない。エイナウディ出版はスラッファに届けなかったのであろうか。なお、1977年11月に洋書店を通じて筆者が入手したイタリア語版を確認すると、それは1972年版で注記が削除された版本であった。

『商品による商品の生産』の日本語訳は目録番号5604である。そこに「Translator is I. Hishiyama」とあるが、正しくは「Translators are I. Hishiyama and H. Yamashita」である。

デ・ヴィーヴォは稀観書の書誌事項に関しては詳しく調査したのかも知れないが、スラッファ自身の『商品による商品の生産』に関しては、ここまで指摘したように、一冊ずつ確認する作業を怠ったのではないと思われる。また、トリニティ・コレッジ図書館の分類番号を表わすとされる、例えば、目録番号5606の「3949.1」は前述のように「Sraffa 3949c」であった。目録番号5620は1975年刊の『商品による商品の生産』英語版の最初のペーパーバック版である。デ・ヴィーヴォの目録ではこのバージョンのトリニティ・コレッジ図書館の分類番号は「8231.1」とされている。しかし、オンライン・カタログで検索すると分類番号は「Sraffa 8231[1]」である。この程度であれば問題はないかも知れない。同じく英語版ペーパーバックの第2刷（1976年）はデ・ヴィーヴォの目録番号5622に記載されていて2冊あると記されているが、トリニティ・コレッジ図書館の分類番号として「8231.2」とだけ記されている。この1976年刊の本をオンライン・カタログで検索すると、Sraffa 8231[4]とSraffa 8231[5]の2冊がある。英語版ペーパーバックは1979年に2回増刷されていて、デ・ヴィーヴォの目録では目録番号5627と5628とに区別して記載されている。トリニティ・コレッジ図書館の分類番号は8231.3と8231.4であるとされている。1979年刊のペーパーバックをオンライン・カタログで検索するとSraffa 8231[2]とSraffa 8231[3]の2冊があるが、1979年に2回増刷されたことの情報には記されていない。いずれにしてのトリニティ・コレッジ図書館の分類番号

に関して、デ・ヴィーヴォの目録の記載とオンライン・カタログでの記載とで一致しない場合がある。筆者は 1979 年の 2 回目の増刷本を直接は見していないが、1990 年の増刷本に記載の増刷履歴に「1979 (twice)」と印刷されていることを確認した。

パシネッティは序論の最後の方で「2 つの重要な対照的な出来事」として、ジェヴォンズ (William Stanley Jevons) の『経済学の理論 *The Theory of Political Economy*』(初版、1871 年) とカンティロン (Richard Cantillon) の『商業試論 *Essai sur la nature du commerce en général*』(初版、1755 年) に関するスラッフアの収集方針にふれている。

ジェヴォンズは『経済学の理論』の第 2 版 (1879 年) で新たな長文の序文を付し、そこでリカードに対する厳しい攻撃を展開した。ジェヴォンズのリカード評価はスラッフアとはまさに反対である。「スラッフアの蔵書にジェヴォンズの本の初版 (1871 年) と、もちろんリカードへの厳しい評価を再生産した第 3 (決定 definitive) 版 (1888 年) を見いだす。しかし、そのような評価がはじめてあらわれた第 2 版は見当たらない」(De Vivo 2014, p.XXVIII) とパシネッティは述べている。確かにジェヴォンズの第 2 版は、デ・ヴィーヴォの目録にもトリニティ・コレッジ図書館のオンライン・カタログでもスラッフアの蔵書として存在しないが、パシネッティが決定版という第 3 版も存在しない。少なくともスラッフアが最終的に所蔵していたジェヴォンズの『経済学の理論』は初版を 2 冊と死後出版の第 4 版 (1911 年) を 1 冊であった。第 4 版の書誌事項には「Heavily annotated」とある。

第 2 のカンティロン『商業試論』であるが、スラッフアは『商業試論』を 4 冊もっていて、各冊は特別に重要な違いがある。そのうちの 1 冊はジェヴォンズが所有していたもので、ジェヴォンズによる熱狂的なコメントがあると、パシネッティは記している (Ibid., pp. XXVIII-XXIX)。

『商業試論』(1755 年) はデ・ヴィーヴォの目録番号で 682 であり、そこには詳細な書誌が記されている。末尾に記されているトリニティ・コレッジ図書館の分類番号は 320.1 で、そのほかに 99、278、321 があると記されている。つまり、4 冊ある。これをオンライン・カタログで検索すると、分類番号として

Sraffa 99、Sraffa 278、Sraffa 320、Sraffa 320[1]、Sraffa 321 の5つが表示されるが、Sraffa 320[1] は Sraffa 320 に合本されている (BOUND ABOVE) と記されている。また、Sraffa 320[1] に関して「includes a ‘Catalogue des livres’ for Barrois at end (11, [1] p.)」と注記されている。スラッフアが所蔵していた『商業試論』を4冊と数えるか、5冊と数えるか、いずれにしても現物で確認する必要があるだろう。

デ・ヴィーヴォの目録では、目録番号の他にトリニティ・コレッジ図書館での分類番号 (デ・ヴィーヴォは shelf number としているが、トリニティ・コレッジ図書館のオンライン・カタログでは class number である) が記載されているが、すでに述べたようにオンライン・カタログでの検索画面に表示される分類番号と表記が異なる事例があり、また目録番号と混同し易い表記になっている。「Sraffa 2706」のように省略せずに記載するか、略記するにしても「S 2706」のようにすれば、デ・ヴィーヴォのカタログ番号と混同することは避けられるだろう (後出のようにヘールチェは混同した)。

IV スラッフアの古書収集のエピソード

デ・ヴィーヴォは『スラッフア蔵書目録』の序文の中で、スラッフアと古書籍商との付き合いや古書収集方法などについて紹介している。ここでは、それに関連した、いくつかのエピソードを紹介することにしよう。

水田洋 水田洋は彼の『アダム・スミスの蔵書目録 *Adam Smith's Library A Supplement to Bonar's Catalogue with a Checklist of the whole Library*』(1967年)の編集過程でスラッフアと親しく交わるようになった。

「トリニティ・カレッジのスラッフアのひろい書斎は、窓と暖炉を除いて、四つの壁面がすべて書架でおおわれ、そこにびっしり並んでいた本は、ほとんどすべて古典と書誌であった (寝室の壁面も、イタリア語の本でおおわれていた)。しかし、彼自身は、古典の収集にはじめから関心があったわけではなく、リカード全集の編集にとりかかってからだと言っていた」と水田は伝えている (水田 1988、166 頁)。

「スラッファ自身が語ったところでは、古書収集は、リカード全集編集の副産物であった。したがってそれは戦中戦後のことである。スラッファの父は裕福な法律家であったが、政治情勢もあって、彼が遺産として得たものはわずかであった。そうすると、ケインズのコレクションをささえたのが投機であったように、スラッファも投機によって本を買ったのだろうか。彼は儲けも投機もきらいだった、とカルドアは書いている」(同上、169 頁)。

ではスラッファは稀覯書の購入資金をどうしたのであろうか。水田は続けて、カルドアによればということで、つぎのように述べている。「スラッファの財政的基礎は、じつは日本の国債であった。… 戦時中に日本国債が、額面の五—一〇パーセント(未払利子をふくめた額に対しては一—二パーセント)だったときに、全財産を投じてそれを買った。日本は戦後に、強制されようとされまいと(負けても勝っても)、対外債務を履行するにちがいないと、予測したのである。こうして、スラッファのただ一度の投資は、四、五十倍になってかえってきた」(同上、170 頁)。

スラッファが日本の戦時公債で儲けたということは、トリニティ・コレッジの財政について調査した Robert Neild も、スラッファから直接聞いた話として紹介している (Neild 2008, pp.133, 136)。

アダム・スミスの自筆訂正がはいった『国富論』の初版を、スラッファは 1959 年にサザビーの競売で購入し、水田はスラッファから見せられたことがある。スラッファの死後、水田はそれを確認しようとしたが、スラッファ蔵書にはなかった。誰かに貸して、戻ってこなかった(スラッファの記憶力減退につけこんで盗んだのだろう)。「この初版はふつうのしろものではなく、スミス自身の蔵書票と書きこみのある、いわば手拓本であった。書きこみは、再版のための訂正と思われる三か所だけで、内容的にもとくに重要なものではない。しかし、スミスの生存中に合わせて十一回版を重ねた両著作のうち、このような自筆訂正本が残っているのは、これだけである」(水田 1988、164 頁。両著作のもうひとつは『道徳感情論』である)。

記憶力の減退、「面会の約束を忘れ、部屋の鍵をどこかに置き忘れ、鍵を掛けないで外出したことを忘れ、鍵がないから部屋にもどれないといいだす、と

いう状態だったから、誰にどの本を貸したかがわからなくなるのも、当然であろう」(同上、165頁)。

シモン・アブラムスキー デ・ヴィーヴォが取り上げていた古書籍商の一人にシモン・アブラムスキー (Chimen Abramsky) がいる。シモン・アブラムスキーと彼の妻に関して、孫のサーシャ・アブラムスキー (Sasha Abramsky) が書いた *The House of Twenty Thousand Books* (Abramsky 2015) があり、その中でスラッフアに言及した箇所があるので、ここでそれを紹介することにしよう¹⁾。それによってスラッフアの書籍の収集の仕方的一端がわかるだろう。

Abramsky (2015) によると、シモン・アブラムスキー (1916-2010) は1916年にミンスクの近くで生まれた。父親はユダヤのラビであった。10代の初めころはモスクワで過ごした。その後ロンドンに移住し、そこでカール・マルクスの著作を知り、左翼政治にかかわるようになった。エルサレムに新設されたヘブライ大学で学び、ロンドンに戻ったあと結婚した。彼と妻のミリアム (Miriam) は長年の間ロンドンのイーストエンドで評判の高いユダヤ書店を経営した。1941年6月ナチスがロシアに侵攻したとき、シモンは共産党に入党し、スターリンによる残虐行為を決定的に認識した1958年まで黨員であった。中年になってからシモン・アブラムスキーは、リベラルな思想家、ヒューマニストとして再出発し、サザビーズの手稿の専門家も勤めた。1966年、ユニヴァーシティ・コレッジ・ロンドンに新設された近代ユダヤ史講師職に招かれ、その後ヘブライおよびユダヤ研究ゴールドスミス教授 Goldsmith Professor of Hebrew and Jewish Studies に任命された。

社会主義文献とユダヤ史の巨大なコレクションを蓄積したシモン・アブラムスキーは妻とともに「書物の家 House of Books」の収集本の世話をし、そこには多くの思想家や著名人が集ったが、ピエロ・スラッフアはその一人であつ

1) Sasha Abramsky の *House of Twenty Thousand Books* は2014年にロンドンの Halban Publishers から、2015年にニューヨークの New York Review Books から出版されている。両者の内容はほぼ同じだが、全体のページ数が異なり、後者にある索引が前者には付されていないなどの違いがある。本稿では2015年のニューヨーク版を用いている。

た。Abramsky (2015) でのスラッフアへの言及を抜き出してみよう。

シモンの「友人で稀観書収集仲間の経済学者ピエロ・スラッフア」、シモンは「マルクスの珍本を購入する名誉 privilege のためスラッフアと競った」(Abramsky 2015, p.50)。「シモンはトリニティのスラッフアを何度も訪問し、大きな食堂で彼と食事した。食堂の北の端にはコレッジの創設者ヘンリ八世の油彩画があり、…。反対にスラッフアはしばしば Hillway での食事に強く求められていた」(Ibid., p.117)。「スラッフアは、ラビの息子が非常に大事にした深遠な社会主義文献への同様の愛と知識をもった、英国でもう一人だけの収集家であった」(Ibid.)。「ピエロ・スラッフアはミニの食事を口にし、マルクス、レーニンあるいはローザ・ルクセンブルクの稀観本を論じていた」(Ibid., p.271。ミニはシモンの妻ミリアムの愛称)。

「シモンの最も価値ある書物の多くは、スラッフアとの書簡の中にその情報が記録されている。…例えば、これらの手紙の中に『資本論』の初期の版に関する議論がある。その版にはロンドンのドイツ労働者協会に献呈されたマルクス自身の署名がある。シモンはそれを 1950 年代の終わりに購入していて、それをスラッフアに 750 ポンドという当時驚くほどの金額で売った。そのうち 600 ポンドはキャッシュで支払われ、残りは現物で支払われた。シモンはスラッフアが持っていたマルクスの別の本を求めた。売られた本の金額は、…当時の若手公務員の年間給与額にほぼ相当する。(その『資本論』はその後盗難にあい、10 年後にスイスで現われた。その時、トリニティ・コレッジは身代金を払って受け戻した。)」(Ibid., pp.117-118)

シモンはデカルトの『省察録』の初版を、スラッフアからレーニンの手紙とエンゲルスの稀観本との交換で入手していた (Ibid., p.247)。

デ・ヴィーヴォ編の目録を見ると、シモン・アブラムスキーは自身が書いたものを、献辞を付してスラッフアに贈っていることがわかる (目録番号の 4、5、6 および Henry Collins との共著の 1028)。

E. H. カー トリニティ・コレッジ図書館のジョナサン・スミス (Jonathan Smith) が紹介している事例を付け加えておくことにしよう (Smith 2011)。

それは E. H. カー (Edward Hallett Carr) に関することである。カーはトリニティ・コレッジの出身で 1915 年に古典学トライポス (Classical Tripos) の第一部、1916 年に第二部をそれぞれ最上位の成績でもって卒業した。在学中は、いくつもの賞を受賞した。英国外務省に勤務したのち、ウェールズ大学、オクスフォードのベリオル・コレッジなどを経て、1955 年にトリニティのフェローとなった。ロシア、ソヴィエトの研究者として有名である。

コレッジのスラッフアの居室は、経済学のみならず社会科学関係の稀覯書などの蔵書の住処であり、スラッフアの友人たちもその恩恵に与っていたようであった。1973 年のスラッフアとカーとのやり取りをスミスは伝えている。

スラッフアは書架の空きの部分を誰に貸したのか思い出せなくて気が変になっていたが、ようやくわかって、それがカーであった。すぐに返却するよう求めたが、それに対してカーはもう 2 週間貸して欲しいと頼んだ。カーが借りていた本は、彼が知る限りで同じ本が国内にはない (つまり、英国内で所有していたのはスラッフアだけ)、そのような稀覯本であったということである。このときカーは『経済計画の基礎 Foundations of a Planned Economy』第 3 巻の仕事にあたっていた。

アルノルド・ヘールチェ リカード著作集の総索引の作成でスラッフアに協力したオランダのアルノルド・ヘールチェ (Arnold Heertje) が、デ・ヴィーヴォ編の『ピエロ・スラッフア蔵書目録』を書評している (Heertje 2017)。その書評論文のなかで言及されている、スラッフアの蔵書を巡るスラッフアとヘールチェのやり取りを、ここで紹介することにしよう。

デ・ヴィーヴォは、スラッフアが 1960 年代と 1970 年代初めに重複本の多くを売ったと記しているが、それに関連してヘールチェは、1966 年 3 月 3 日付でスラッフアから受け取った手紙に「狭い部屋に移ることになると考えたとき、たくさんの本を売りました。しかし、余裕ができたいま、可能な時には、売のではなく、それらを買いつつあります」(Heertje 2017, p.67) とあつたと述べている。

ヘールチェは、収集家スラッフアの行動の興味をそそる一例として、ヘール

チェが 1980 年に購入したリカード『原理 *Principles*』初版の 1 冊をあげている。この 1 冊は、オリジナルのボール紙の表紙で、スラッフアが 1979 年に売ったものであった。これにはスラッフアの手で裏の見返しに「Grenville's copy with important notes」と書き込まれていて、非常に興味深い 1 冊であることがわかる²⁾。この本にはインクで書かれた多くの紙が挟み込まれていて、欄外には鉛筆で書かれた注記がある。なぜスラッフアはこの非常に特別なリカードの逸品を売ったのだろうか。ヘールチェは「私が考えることができる唯一の理由は、グレンヴィルが市場における価値と価格を説明するのに需要と供給の関係というシンメトリックな体系を支持する多数派経済学者に属するということである。そうでなければ謎が残る」(Ibid., p.67) という。グレンヴィルのコメントが再生産費にもとづくリカードの長期状態の分析にほとんど関係ないとスラッフアが考えていたことはありうるともヘールチェはいう³⁾。

ヘールチェは 1965 年 5 月 19 日、アムステルダムでのオークションで『原理』の特別な 1 冊を購入した。のちに、その 1 冊のもとの所有者が 30 年代にケインブリジの市場 (market place) で手に入れたことがわかった。ヘールチェがスラッフアにそのことを知らせると、1965 年 6 月 20 日付でスラッフアからつぎのような手紙がきた：重丁 (double leaves) のあるリカードの 1 冊を見つけておめでとう。それは今なお非常に稀少です。アムステルダムを訪れたときには、とてもそれを見たいものです。そして、もしいつかあなたがそれを売るかなにか他の稀覯書と交換に手放そうと考えたときには、それと競う機会を持ちたいと思います。(Ibid., p.68)

ヘールチェが手に入れた 1 冊というのは、リカードの『経済学および課税の原理』の初版 (1817 年) の重章問題でスラッフアの推測を証明する変種、すなわち製本の際に切りとられるべき 3 葉 (6 ページ分) がそのまま残されて、

2) Grenville とは政治家のウィリアム・ウインダム・グレンヴィル (William Wyndham Grenville)。グレンヴィルがリカードの『原理』を読んでいたことをリカードは知っていた (リカードの 1817 年 9 月 12 日付ジェイムズ・ミル宛の手紙、1818 年 3 月 23 日付トラワ宛手紙など参照)。

3) 1979 年にスラッフアがこの 1 冊を手放したということだが、この時点でのスラッフアの精神状態はどうだったのだろうか、正常な判断ができたのかどうか、筆者にはそのような疑問が残る。

刷り直し後の3葉が加えられている1冊である。そのような1冊がコロムビア大学図書館に存在することがスティグラー (George J. Stigler) からスラッフアに知らされた。このことはリカード著作集第X巻の補遺で説明されている(邦訳『リカード全集』では第I巻に訳出)。そしてスラッフアは、リカード著作集第XI巻で、そのような変種の2冊目 (second freak copy) をヘールチェが見つけたこと、3番目はまだ見つかっていないことを述べている。

ヘールチェはもう一つ、チューネン (Johann Heinrich von Thünen) 『孤立国 *Der isolierte Staat*』について取り上げている。『孤立国』の初版は1826年だが、スラッフアの蔵書には、1842年の『孤立国』第2版 (Sraffa 5834)、1850年刊行の第2部の初版 (Sraffa 5835)、そしてチューネンの死後に遺稿から増補された1875年刊の全巻版 (Sraffa 5838) がある。さらにフランス語版で第一部 (1851年、Sraffa 2018)、第二部 (1857年、Sraffa 2019) がある。

ヘールチェは1966年2月にトリニティ・コレッジの部屋で経済学の基礎 (the foundation of political economy) と経済学の稀覯書についてスラッフアと会話を交わした⁴⁾。そのときスラッフアはヘールチェにフォン・チューネンの初版本をもっているかどうかと尋ねた。ヘールチェは1962年の秋にドイツの書店から買っていたので「イエス」と答えた。スラッフアはヘールチェに対し、フォン・チューネンの初版本は非常に稀覯であり、経済学の稀覯書の収集を始めてからまだ1冊も見ることがないと言って、1854年に出版されたゴッセン (Hermann Heinrich Gossen) の消費者の行動、選好、効用に関する非常にレアな版本を持っているかと尋ねた。ヘールチェが「ノー」と答えると、ゴッセンとフォン・チューネンを交換する考えはないかと尋ねてきた。そして、彼の経済理論の概念にとって、経済発展の革新エンジンとして生産と農業を強調するフォン・チューネンの本は、市場経済の需要サイドの主観的な面を強調するゴッセンの本よりもはるかに重要であるとスラッフアは付け加えた。「彼にとって、フォン・チューネンは古典派経済学者に属するのである。彼は蔵書のコーナーストーンとしてフォン・チューネンの本の1826年版に目を向

4) このスラッフア訪問の際に、ヘールチェは総索引作成の協力依頼を受けた。松本 (2018) 参照。

けていた」(Heertje 2017, p.69)。ヘールチェはスラッフアの申し出を断ったが、スラッフアのためにフォン・チューネンの本を探し、1979年に1冊見つけた。だがその時にはスラッフアの記憶力は悪化していた。蔵書目録に、やはりフォン・チューネンの初版本を見つけることはできない。「しかしながら、スラッフアの蔵書にはゴッセンの本の非常にレアな初版本が目録番号の2059と2782の2冊がある(However, Sraffa's library contains two copies of the very rare first edition of Gossen's book, entries 2059 and 2782.)」とヘールチェは記している(Ibid., p.69)。

「目録番号の2059と2782」がゴッセンの初版本であるというヘールチェの記述は不正確である。それはデ・ヴィーヴォ編の目録の記載の仕方が、目録番号とトリニティ・コレッジ図書館の分類番号とを混同し易いということにある。デ・ヴィーヴォ編の目録では、ゴッセンの初版本は次のように記載されている。

2059 Gossen, Hermann Heirich

Entwicklung der Gesetze des menschlichen Verkehre, und der daraus fließenden Regeln für menschliches Handeln.

Braunschweig: Friedrich Verlag und Sohn, 1854; viii+277+[1]p errata; [1] leaf advs; 22 cm. First edition, first issue. (Another copy at 2782).

2013

デ・ヴィーヴォ編の目録の最初の2059は目録の通し番号で、末尾の2013はトリニティ・コレッジ図書館の分類番号、正確には「Sraffa 2013」である。「もう1冊は2782(Another copy at 2782)」とあるのは、目録記載事項の約束事ではトリニティ・コレッジ図書館の分類番号で2782であることを意味する。ヘールチェは「2782」をデ・ヴィーヴォ編の目録番号と読み間違えたのである。このように、デ・ヴィーヴォのような記載の仕方ではヘールチェのようなミスを誘うおそれがあるといわざるを得ない。

菱山泉 菱山泉は日本におけるスラッフア研究の先駆者である。1969-70年

の1年間、菱山がヨーロッパ留学をしたとき、ケインブリジにも滞在し、スラッフアと交流した。菱山がケインブリジを離れるさい、つぎのようなことがあった。「私がお別れの挨拶に彼を訪れた翌日に、秘書に託して一冊の版本を私におくられたときのことである。その版本とは、一八九一年にその子孫によって私的に印刷された『大陸旅行からのリカードウ手紙集』であるけれども、その手紙集に添えて、きみは日本にかえる前に大陸を訪れるそうだから、このリカードウの書物をたずさえていってほしいという旨の私にあてた手紙があった。そのとき私は、その前日の別れぎわに、彼が私の大陸旅行の道筋は大体リカードウのそれに似ているといったことを思い出したものである」（菱山1972）。

スラッフアが菱山に贈った『大陸旅行からのリカードウ手紙集』はデ・ヴィーヴォの目録ではつぎのように記されている。

4929 Ricardo, David.

Letters written by David Ricardo during a tour on the Continent | Privately printed.

Gloucester: printed by John Bellows, 1891; 105p; 30 cm. First edition. Ricardo's letters are not reprinted in full. The working copy for the Ricardo edition (where the letters are printed in full). (Another (unopened) copy at 2766).

This copy was given to Sraffa by Frank Ricardo (the book had been printed for the family) at Keynes's request (see Sraffa Papers D3/11/71)

999.09

スラッフアは『手紙集』を1冊菱山に贈呈したが、最終的には、あるいはその当時でもまだ2冊所蔵していた。1冊はリカード著作集のためにフランク・リカードから贈られたものであり、デ・ヴィーヴォによるとトリニティ・コレッジ図書館の分類番号では「999.09」である。ところが同書をオンライン・カタログで検索すると「Sraffa 999/9」と「Sraffa 2766」の2冊がある。問題は「999.09」と「Sraffa 999/9」で、やはりデ・ヴィーヴォの表記とオンライ

ン・カタログでの表記の違いがある。

筆者がトリニティ・コレッジ図書館の分類番号で「/」がある事例を見たのは初めてであったので「999」について確認すると、(Sraffa を省略して記すと) 999 と 999/1 から 999/19 までであるが、999/4 はなく 999/4[1]、999/4[2]、999/4[3] で、全部で 22 点あった。このうち、Sraffa 999/17 は John Wheatley の *An Essay on the Theory of Money and principles of Commerce*, 2 vols, 1807, 1822 であるがデ・ヴィーヴォ編の目録では目録番号 6599 に書誌が記載されていて、それによるとトリニティ・コレッジ図書館の分類番号は「999.171-2」だとある。デ・ヴィーヴォの目録では Vol. I (1807 年) と Vol. II (1822 年) が一括して記載されている。オンライン・カタログでは 2 巻あわせて「Sraffa 999/17」であるが、デ・ヴィーヴォは「999.171-2」としていて表記が異なる。しかもかなりの違いである。

トリニティ・コレッジ図書館が 22 点の文献を「999」とその枝番号で括つたのには理由があったと思われる。22 点のタイトルだけでは関連が不明であり、内容を確認する必要がある。

V むすび

スラッファが若いころから古書に興味を持っていて一定の知識を持っていたとしても、本格的に経済学や関連した分野の古書、稀覯書の収集を始めたのはリカード著作集の編集過程においてであったのだろう。

ケインズは土曜日の午後、スラッファを伴ってケインブリジの古書店めぐりをしたことが伝えられている。デイヴィッド・ヒューム (David Hume) 『人間本性論 *A Treatise of Human Nature*』の『摘要 *Abstract*』が匿名で出版されたが、それは長くアダム・スミスによると考えられていた。この『摘要』を入手したケインズはスラッファとともに、その匿名の著者がヒューム自身であることを明らかにし、『摘要』の復刻版を 1938 年に出版した。また、スラッファがマン島に收容されていたとき、ケインズはマン島のスラッファにあてた手紙の中で、Sir Francis Burdett の蔵書カタログを同封して、そのなかのいくつかの文献の値踏みを相談していた (1940 年 8 月 20 日付。Keynes Papers 所

蔵)。このようにケインズは古書や文献に関するスラッファの知識に信頼をおいていたといえる。

スラッファの古書、稀覯書の収集方針は、かれが考える経済思想史と大きく関連しているとパシネッティはいう。しかし、経済思想史に関してスラッファが書き残したのは1927年11月の「歴史 History」と題された覚え書きくらいで、「スラッファは経済思想史について思考のなかで熟慮し続けていた。ただそれは、会話の中で、紙片への書きつけや本の欄外記入などでただ示唆されているだけである」(De Vivo 2014, pp. XIX-XX)とパシネッティが述べているように、スラッファが遺した蔵書から、かれの経済思想史をどのように読み解くかは、残された課題である。

参考文献

- Abramsky, Sasha (2015) *House of Twenty Thousand Books*, New York Review Books.
- De Vivo, Giancarlo (2014) *Catalogue of the Library of Piero Sraffa*, Edited with an introduction, notes, and indexes, by Giancarlo De Vivo and an essay on *Piero Sraffa and his books*, by Luigi L. Pasinetti, Fondazione Luigi Einaudi, Torino and Fondazione Raffaele Mattioli, Milano.
- Heertje, Arnold (2017) “An essay on the Catalogue of the Library of Piero Sraffa, edited by G. de Vivo”, *History of Economics Review*, Vol. 66, No.1, pp.63-71.
- Neild, Robert (2008) *Riches and Responsibility: the Financial History of Trinity College*, Cambridge, Granta Editions.
- Smith, Jonathan (2011) “Sraffa and Trinity” in N. Salvadori and Ch. Gehrke (eds.) *Keynes, Sraffa and the Criticism of Neoclassical Theory, Essays in honour of Heinz Kurz*, Routledge, pp.101-112.
- 菱山泉 (1972) 「スラッファについて」『リカーディアーナ』(季報 7; 『リカードウ全集』第1巻、第7回配本付録) 雄松堂書店。
- 松本有一 (2018) 「スラッファのリカード著作集編集について」『経済学論究』第72巻第2号、9月。
- 水田洋 (1988) 『知の風景 続・近代ヨーロッパ思想史の周辺』筑摩書房。